



おいしいお話

令和元年 12月

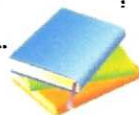


本の中に出てくる食べ物や食材が、12/24(火)の給食に登場します。



12/24の献立

カレーライス、
サラダ、ブラウニー、
牛乳



紹介した本は
学校図書館で展示中。
借りられます！



美味しいケーキを召し上がれ



『負けない パティシエガール』

ジョーン・パウアー/著 小学館

献立にある「ブラウニー」は平たく焼いた濃厚なチョコレートケーキ。給食にケーキが出るなんてうれしいですね。そこで今回、ケーキが出てくる小説を紹介します。

現代のアメリカを舞台にしたケーキ作りが大好きな女の子が主人公。彼女の夢はパティシエ(菓子職人)になること。そして、自分の店を持ち、料理番組に出ることです。実際彼女がつくるケーキ(特に得意なのはカップケーキ)は食べたひと誰もが絶賛するおいしさ。夢に向かってまっしぐら、と行きたいところです。でも彼女の置かれている状況はケーキみたいに甘くない。文字の読み書きが苦手な彼女は学校では落ちこぼれ。そのうえ、暴力をふるうママの元ボーイフレンドから逃げるため母子二人見知らぬ町で暮らすことになってしまいます。そんな状況でも主人公が前向きで明るく、元気がもらえる作品です。読むうちに本に出てくるケーキが食べたくなります。



カレーライス

『14歳、明日の時間割』

鈴木るりか/著 小学館



『さよなら、田中さん』で中学生作家としてデビューした、鈴木るりかさんの2作目の小説です。1作目は彼女が小学生のとき書いた作品をまとめたものなので主人公は小学生ですが、今回の舞台はとある田舎町の中学校。1時間目「国語」。2時間目「家庭科」。3時間目「数学」。4時間目「道徳」。「昼休み」。5、6時間目「体育」。そして「放課後」。短編小説を学校の時間割に見立て、7つのタイトルの物語が展開されます。一日の話ではなく、タイトルそのままの授業を受ける話でもありません。それぞれの話の語り手は14歳、同じ学校の中学2年生(「放課後」だけは担任の国語の先生)。当たり前かもしれませんが、みんなそれぞれ事情があり、簡単に人には言えない悩みを抱えています。

カレーライスは「道徳」の章で出てきます。家庭環境は選べない、でも中学生はそこで自分の居場所を確保するしかない…。

同世代ならではの生き生きとした感じと、一歩ひいた落ち着いた視点があります。7つの短編は独立して読めますが、ゆるやかにつながっていて、やはり最初から読むのがおすすめ。現役中学生が書いたという話題性だけではなく、実力派として注目を集める作家の素敵な作品です。

(表紙や本文中のイラストはカラテカの矢部太郎さん。)